

令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立紅葉川学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任 計6名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
PTA会長、同窓会会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、なぎさ和楽苑長、葛西警察生活安全課少年係、江戸川区文化教育部健全育成課長 計8名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月21日（金曜）内部委員6名、協議委員4名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和元年9月14日（土曜）内部委員5名、協議委員3名
文化祭公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和2年3月13日（金曜）新型コロナウイルス感染拡大につき中止
これまでの教育活動に関する報告をするとともにアンケート調査により教育活動に対する意見を回収。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月21日（金曜）内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和元年9月14日（土曜）内部委員3名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和2年3月13日（金曜）新型コロナウイルス感染拡大につき中止
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「生活指導・進路指導への評価」「教育環境の改善」の観点で実施する。

(

2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：703人	回収：692人	回収率：98.4%
・12月	保護者全員	対象：701人	回収：467人	回収率：66.4%
・12月	地域・住民	対象： 人	回収： 14人	回収率： %
・12月	教職員	対象： 41人	回収： 41人	回収率：100%

(3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備
ライフ・ワーク・バランスの推進など

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足している。
- ・生活指導は、保護者から80%以上の支持率を得ているが、生徒の中には厳しいと不満をもつ者も多い。
- ・大部分の保護者は、ここに応じた指導に満足している。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
- ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。
 - ・生活指導は、生徒一人一人に目的を明確に説明するとともに、あらゆる機会にマナー意識を持たせる指導が必要である。
 - ・進路指導の満足度が3学年以外は低い。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた充実が必要であると認識できた。
 - ・地域からの信頼が徐々に回復していることが感じられた。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・近隣の住民は、学校の地域行事への参加を望んでいることが分かった。
 - ・地域との防災をはじめとした協力体制の充実が必要である。
 - ・近隣の小学校と中学校の期待が高まっているので、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学校運営
- ・生徒・保護者に対して、HPやPTAメールを送信し、学校の教育方針を説明し理解を得る。
 - ・生活指導については、個別の対応をスクールカウンセラーとの連携を強化する。
 - ・学期ごとに校内研修会を実施し、若手教員育成研修とともに充実を図る。
- (2) 学習指導
- ・基礎学力の充実から大学受験に対応できる学力まで、読解力を深め、主体的、対話的な深い学びを通して、思考力、表現力、読解力を高める授業を推進し、卒業時の進路実現へ向けて行く。
 - ・日東駒専を目指して、確実に進路実現できるよう対応していく。
 - ・生徒の希望する進路の実現に向けた授業力を向上するための校内研修を計画的に実施する。
- (3) 特別活動
- ・運動部の更なる活躍を期待しながら、効率的な練習方法を考慮する。
 - ・文化祭等の学校行事を地域への情報発信に向けて、質的な向上を図る。
- (4) 生活指導
- ・自転車マナー指導や挨拶の励行、身だしなみ指導等、遅刻生徒数の減少を目指す。特に、登校指導の自転車指導を強化する。
 - ・トイレの回収や校内美化について、施設、設備の改修ができるよう関係部署に働きかける。
- (5) 進路指導
- ・進路情報を生徒、保護者に1学年から計画的に伝え、漕ぎ試験を全員に受けさせてデータに基づいて中堅大学進学者数を増大させる。
- (6) 健康・安全
- ・働き方改革からも効率的な業務作業を考え、ライフワークバランスの取れた職場環境づくりを推進していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】

- ・委員の出席を促し、連携強化を深めた。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、回収方法を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、HPの充実や学校公開の機会を増やしていく。